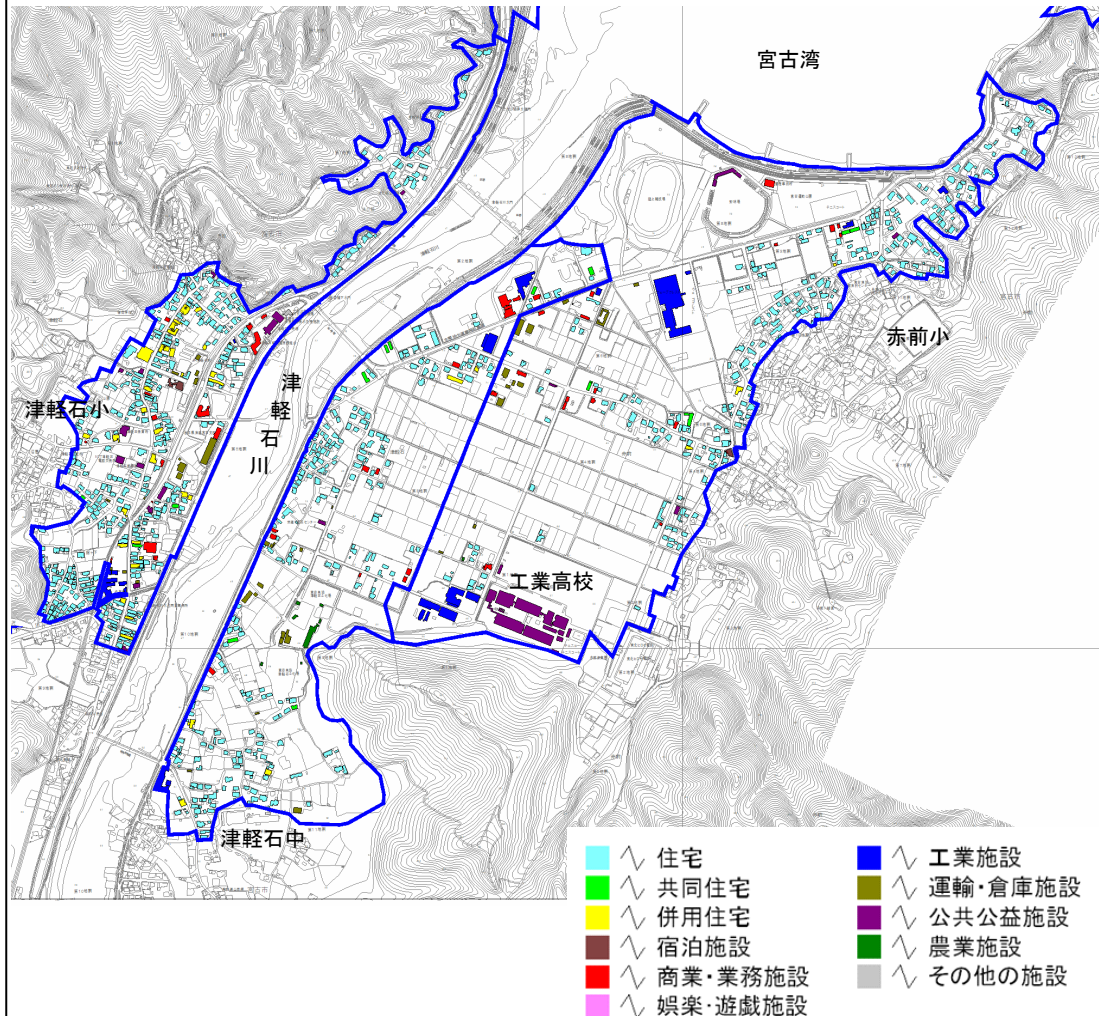


地区の現況

● 基盤整備の概要

- ・ 主要地方道重茂半島線が、国道 45 号と重茂方面を結んでいます。
- ・ 宮古湾に面して宮古運動公園、津軽石漁港が整備されています。
- ・ 中央部から南側にかけて農地が広がっています。

● 震災前の建物用途の状況



● 宮古市東日本大震災復興計画基本計画(案)

第 5 地域別復興まちづくりの方向性

宮古地域

- ・ 防潮堤の新たな整備と必要に応じ嵩上げを促進するとともに、背後地の高台を活用するなど、安全で安心して暮らすことのできる住宅地の整備を進めます。
- ・ 魚市場、漁港、港湾や観光施設などの産業関連基盤については、施設の復旧に向け、計画的、段階的な事業展開により、着実な復興に取り組みます。
- ・ 防潮堤の外部や防潮堤を設置しない地域における避難体制の強化・確保に向け、避難タワーや避難ビルの設置を検討します。また、避難路、避難場所については、高齢者や障がい者に配慮し、誰もが容易に避難することができるよう、その整備の見直しや避難道路網の複線化を進めます。

●宮古市都市計画マスタープラン(H15.3)地域別構想「津軽石地区」

キャッチフレーズ：津軽石川・鮭と白鳥の里

◆地域の特徴

当市の南の玄関口で、津軽石川下流域に市街地が形成され、それを包むように農地が広がっています。

鮭の遡上で有名な津軽石川は白鳥など水鳥の飛来地となっており、野生動物と接する空間として市民の憩いの場になっています。

◆地域の課題

- ① 津軽石川流域の農地は、虫食いの的に住宅の建設が進むとともに休耕地も増える傾向にあります。
- ② 農地と宅地が混在している地域では、居住環境の整備が立ち遅れています。

◆地域の将来像

環境に恵まれた住みよい住宅地になります。

また、魚類や鳥類などの豊かな動植物を育む津軽石川は貴重な市の財産であり、市民の憩いの空間としてこの環境が保全されます。

◆まちづくりの方向 【土地利用】

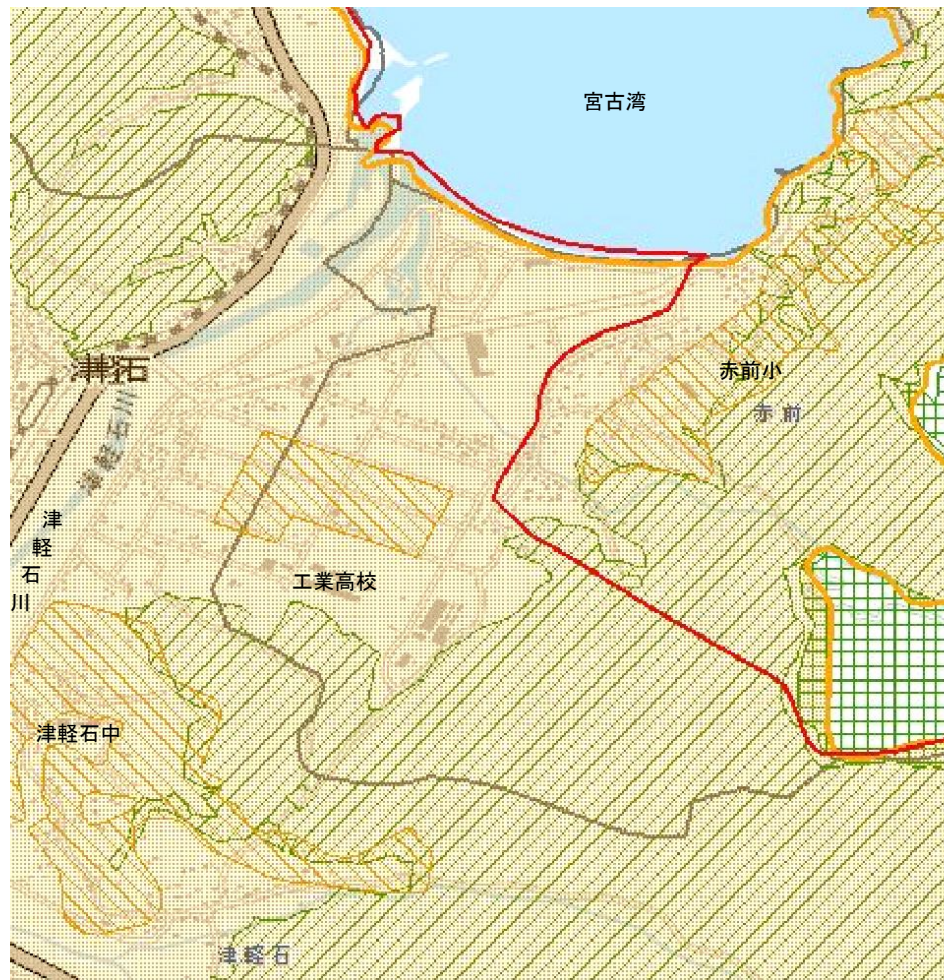
- ① 津軽石川流域の環境保全に努めます。

●都市計画図



凡	例
	都市計画区域
	宅地造成工事規制区域

■国土利用計画



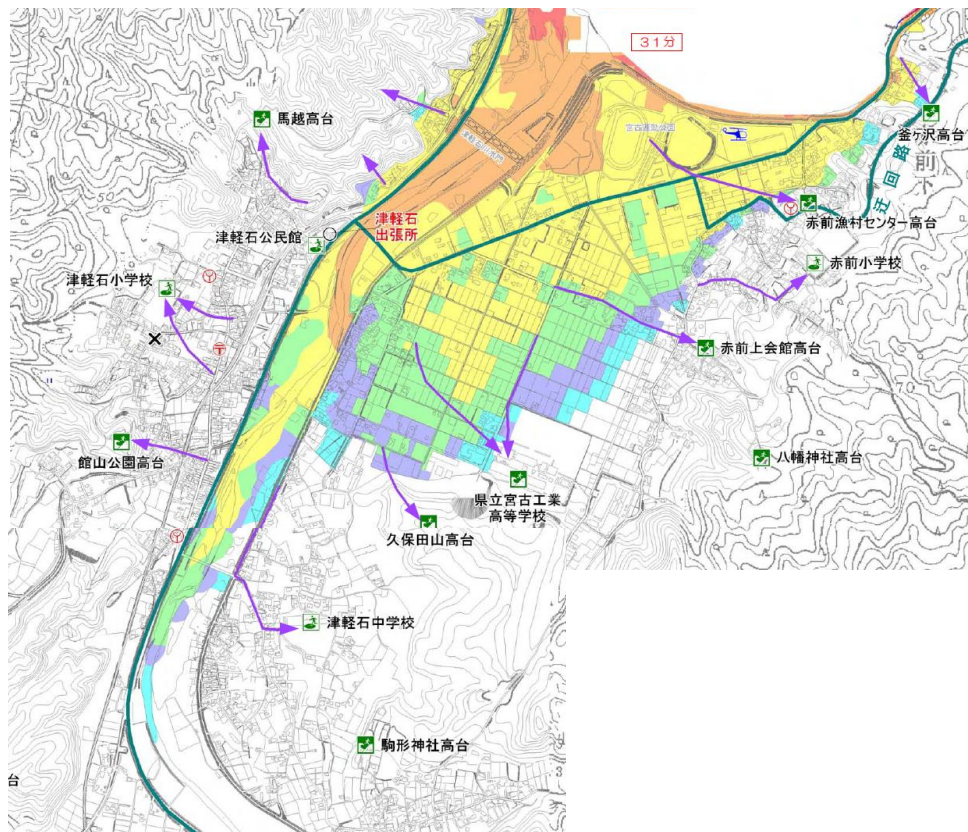
- 都市地域
- 農業地域
- 農用地区域
- 国有林
- 地域森林計画対象民有林

■埋蔵文化財等の状況（いわてデジタルマップより）



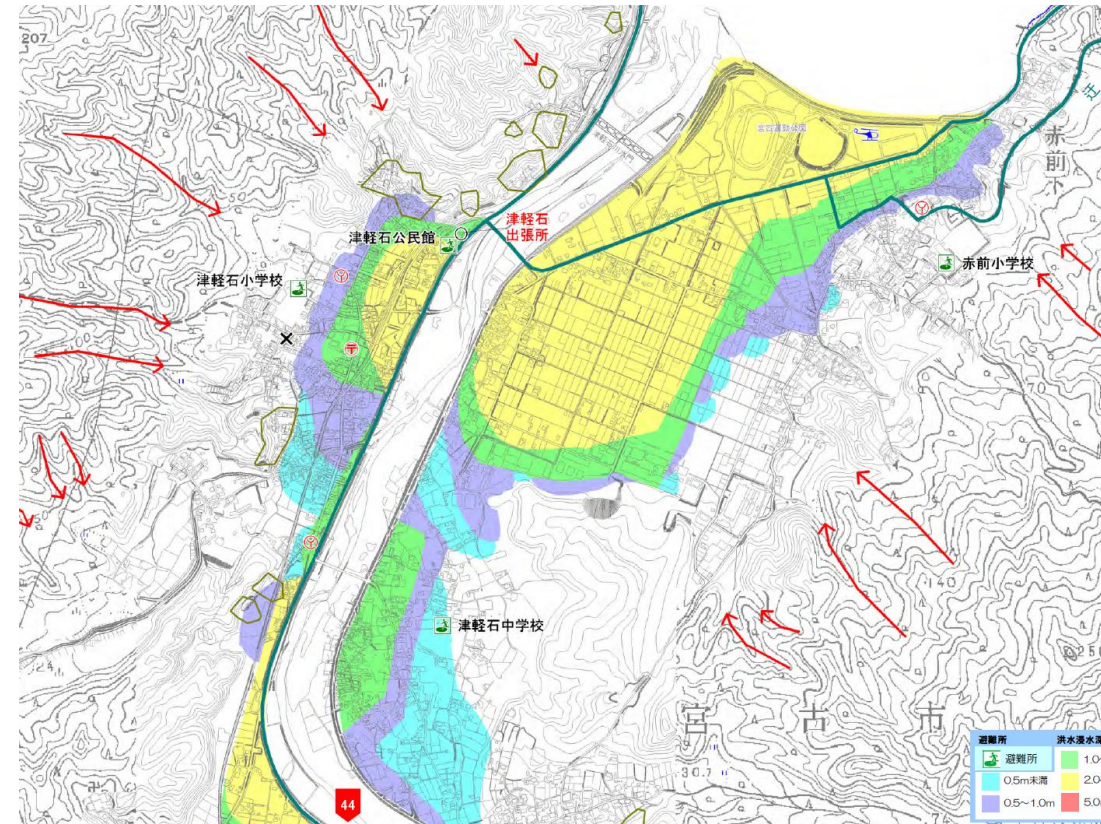
- 埋蔵文化財包蔵地

■避難場所、避難ルート状況（宮古市ハザードマップより）



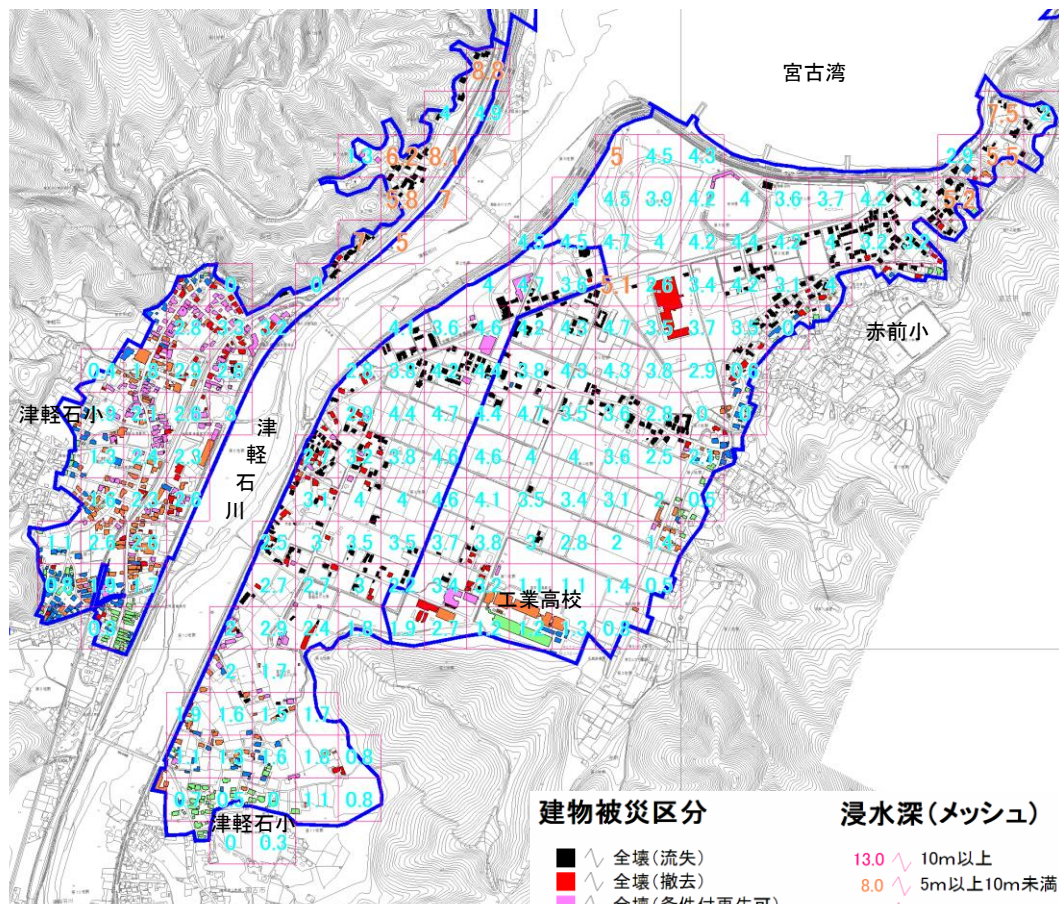
避難場所・避難所		津波浸水深さ	
	避難場所（高台）	0.5m未満	2.0～4.0m
	避難所	0.5～1.0m	4.0～6.0m
	避難ルート	1.0～2.0m	6.0m以上

■危険区域の状況（宮古市ハザードマップより）



避難所	洪水浸水深さ	土砂災害危険箇所
避難所	1.0～2.0m	急傾斜危険箇所（がけくずれ）
0.5m未満	2.0～5.0m	土石流危険渓流
0.5～1.0m	5.0m以上	

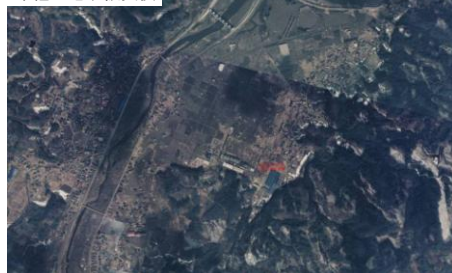
■震災による被害状況



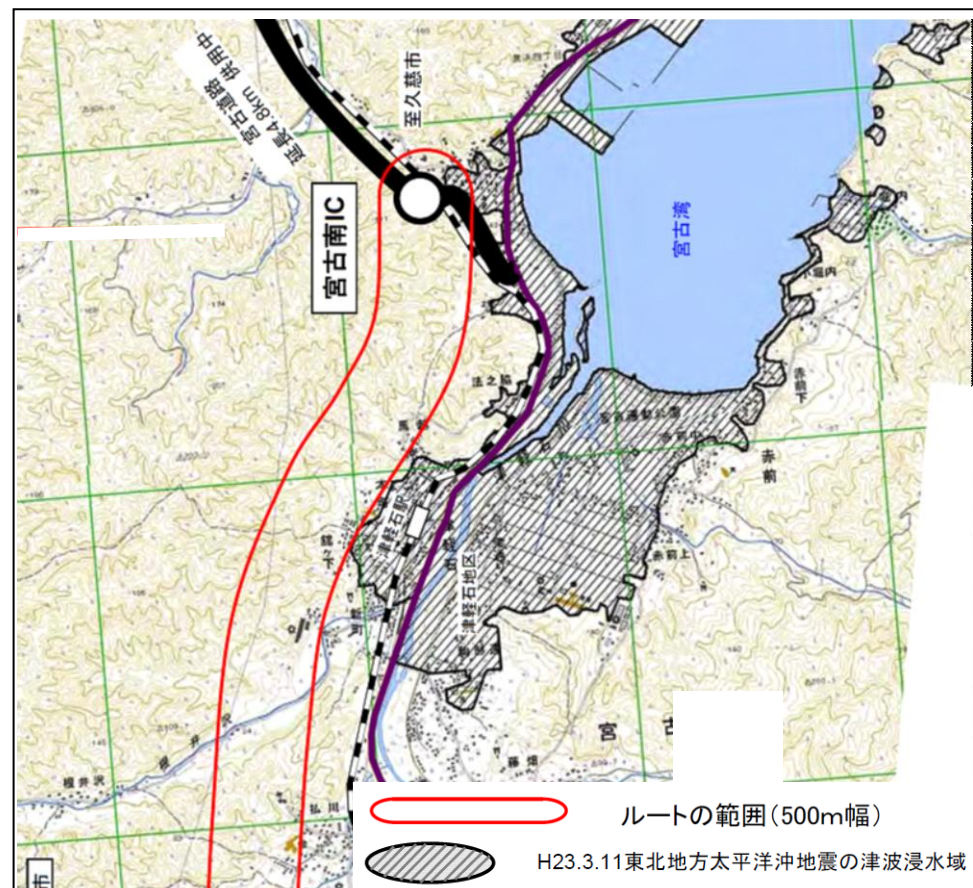
津軽石地域被災前



津軽石地域被災後



■三陸沿岸道路が通る概ねの範囲



道路が通る概ねのルート及び出入り口の位置にかかる意見

- 【沿線市町村の意見】
- ・豊間根地区とのアクセスに配慮してほしい
 - ・大沢地区や津軽石地区とのアクセスに配慮してほしい
 - ・津波浸水域を回避してほしい
 - ・追い越し車線を設置してほしい
 - ・市町村の復興まちづくり計画等に配慮してほしい 等

ルート及び出入り口の位置の考え方

【ルートの考え方】

○津波浸水域を回避し、豊間根地区とのアクセスを考慮したルートを考えています。

【出入り口の位置の考え方】

○山田町豊間根周辺：豊間根地区とのアクセスに配慮した位置を考えています。また、コスト縮減や早期整備を図る観点から、現地の交通利用状況等を踏まえ、南方方向へのアクセスが可能な出入り口を考えています。

※なお、今後詳細な設計を行うにあたり、市町村の復興まちづくり計画等と調整してまいります。